

資 料

鹿児島県沖永良部島の調査で得られたハチ目昆虫

Hymenopterous Insects collected by the Field Survey in Okinoerabujima Island, Kagoshima Prefecture, Japan.

渡辺恭平¹⁾Kyohei WATANABE¹⁾**Key words:** fauna, new record, Oriental region, Ryukyu Islands

はじめに

南西諸島を構成する島の一つである沖永良部島は、与論島と徳之島の上に位置し、その生物相は沖縄本島と共通の要素が多いとされるが、他の主要島に比べると調査が行われていない島である。この島の昆虫の中でも著者の専門とするヒメバチ科寄生蜂を中心に、ハチ目昆虫の調査はとりわけ不十分であり、多くの新知見が予想されるとともに、奄美諸島と沖縄本島の生物相をハチ相から比較する上でも、重要な島の一つである。

この島には生物相に大きく影響する二つの特徴がある。一つ目の特徴は隆起サンゴ礁の島であり、過去に沈水した地史を持つことである（木崎編, 1985; 氏家, 1986）。このことは、毒蛇であるハブ *Protobothrops flavoviridis* が生息していない点などで良く知られており、生物相全体でみても沖縄本島や奄美諸島の各島と比べると欠落が見られる。二つ目の特徴は森林面積が極めて乏しいことである。鹿児島県大島支庁（2016）によると、島の総面積における森林の割合（林野率）は、沖永良部島の場合 10 % と、鹿児島県内の主要島である奄美大島（83 %）や徳之島（43 %）と比べるとその割合は著しく少ない。また、その森林環境は知名町の大山周辺にほとんど限定されている。

このように生物地理学的にも興味深い地

域である一方で、マツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus* とマツノザイセンチュウ *Bursaphelenchus xylophilus* によって引き起こされたマツ枯れが現在進行で発生しており、マツ類の枯死や被害木の伐採が行われている（森林総合研究所, 2006）。これにより森林の乾燥化が進行しており、現時点でのハチ類の生息状況、とりわけ局限された森林環境のハチ類を記録しておくことは、生息地の保全を計画する際の基礎資料となりうる観点からも重要であると思われる。

本稿では、筆者が上記背景から実施した沖永良部島におけるハチ相の調査で得られた標本資料について、同定ができた種について報告を行う。

調査方法

調査は 2016 年の 4 月下旬と 9 月中旬に実施し、島内を車で移動し、以下の 6 地点で見つけ採りによって行った。アリ科 Formicidae については、地表を活動圏とすることと、捕獲時に他の昆虫に噛みついて破損させることがあることから、採集を行っていない。目録中の採集地名については、紙面スペース節約のため以下の通り略記した。採集者は全て筆者で、標本は全て生命の星・地球博物館（KPM-NK）に収蔵した。

[調査を行った地点と環境]

田皆（畑）・・・行政地名：知名町田皆。畑の周囲で、大山から離れた場所のため平坦である（図 1A, B）。標高約 40 ～ 47 m。

¹⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History,
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
渡辺恭平：watanabe-k@nh.kanagawa-museum.jp

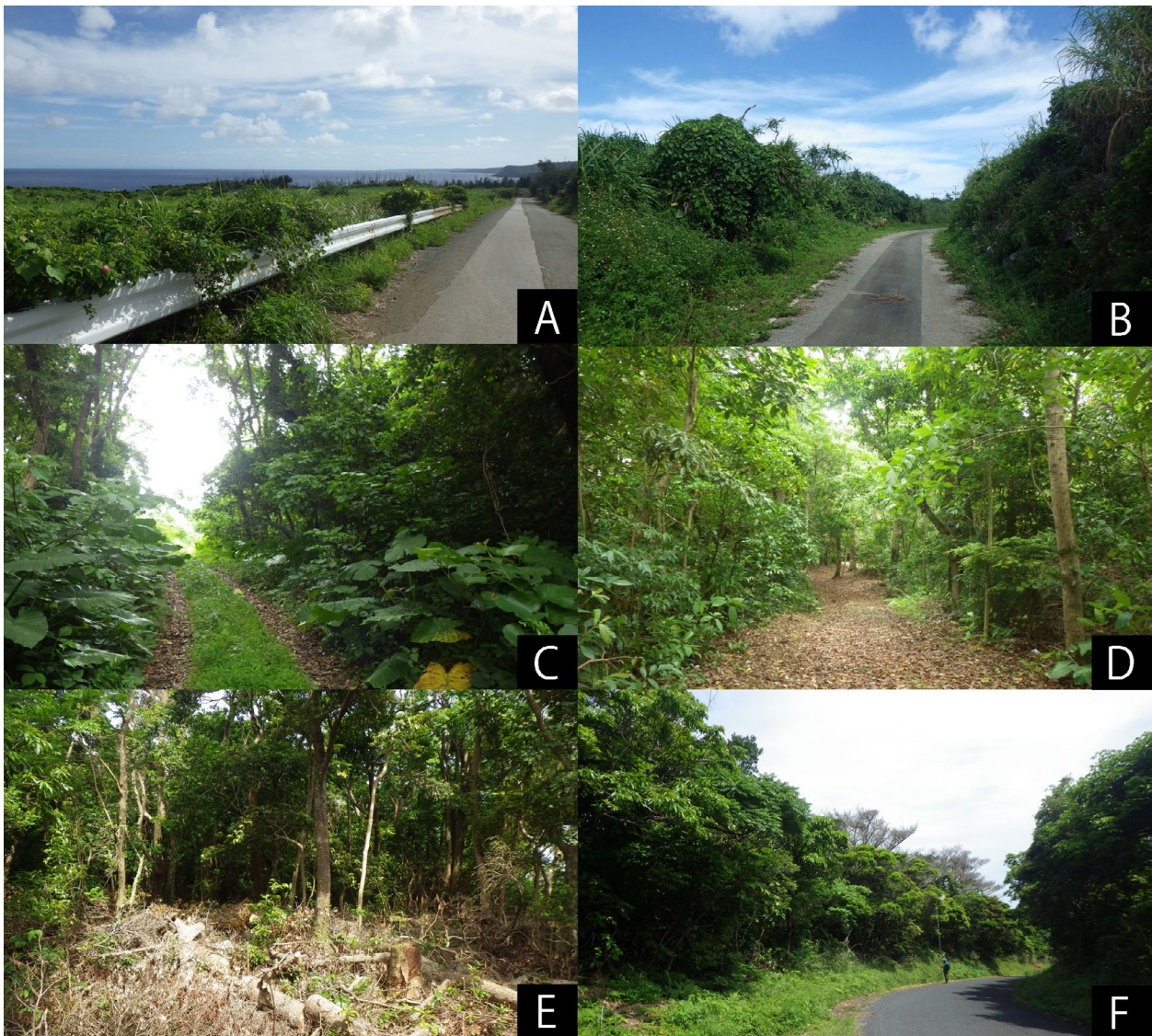


図 1. 沖永良部島における調査地 — A, B, 田皆（畑）；C, 田皆（大山）；D, E, 芦清良；F, 下城。

田皆（大山）・・・行政地名：知名町田皆。大山の山麓部で、この島には少ない湿った環境を伴う林道（図 1C）。標高約 158 ～ 180 m。

芦清良・・・行政地名：知名町芦清良。大山野営場の周辺で、自衛隊基地の南側に位置する。森林が主で、マツ枯れ対策で伐採をしている（図 1D, E）。標高約 200 m。

下城・・・行政地名：知名町下城。大山の山麓部で、自衛隊基地の北側部にある。道路上に上昇気流が流れるため、吹上げ採集でハチが採集できる（図 1F）。標高約 185 ～ 210 m。

沖泊海浜公園・・・行政地名：知名町下城。海沿いの公園で、砂浜の後方に海浜植生とアダン *Pandanus odoratissimus* 等の海岸林が存在する（図 2A-C）。標高約 1 m。

大津勘・・・行政地名：知名町大津勘。大山の南西にある丘陵地で、畑の間に森林が点在する（図 2D）。標高約 90 ～ 125 m。

同定は特に記述がないものは筆者が行ったが、一部の分類群については長瀬博彦氏（ヒメハナバチ科 *Andrenidae*、コハナバチ科 *Halictidae*、ムカシハナバチ科 *Colletidae*、ミツバチ科 *Apidae* のダイミョウキマダラハナバチ *Nomada japonica* およびハキリバチ科 *Megachilidae* のシロオビキホリハキリバチ *Lithurgus collaris*）と清水壮氏（ヒメバチ科 *Ichneumonidae* アメバチ亜科 *Ophioninae*）に同定いただいた。また、ハチの訪花植物については勝山輝男氏と田中徳久博士に同定いただいた。

下記の記録の中には沖永良部島から初記録となるものが含まれているが、従来出版された図鑑類（山根ほか, 1999; 多田内・村尾, 2014; 寺山・須田, 2016）では、分布の表記に「～島ほか」「奄美大島以南」「中琉球」「沖縄諸島」「琉球列島」のような表現が多用されており、初記録となる種の多くは沖縄本島や奄美大島にも見られる種で

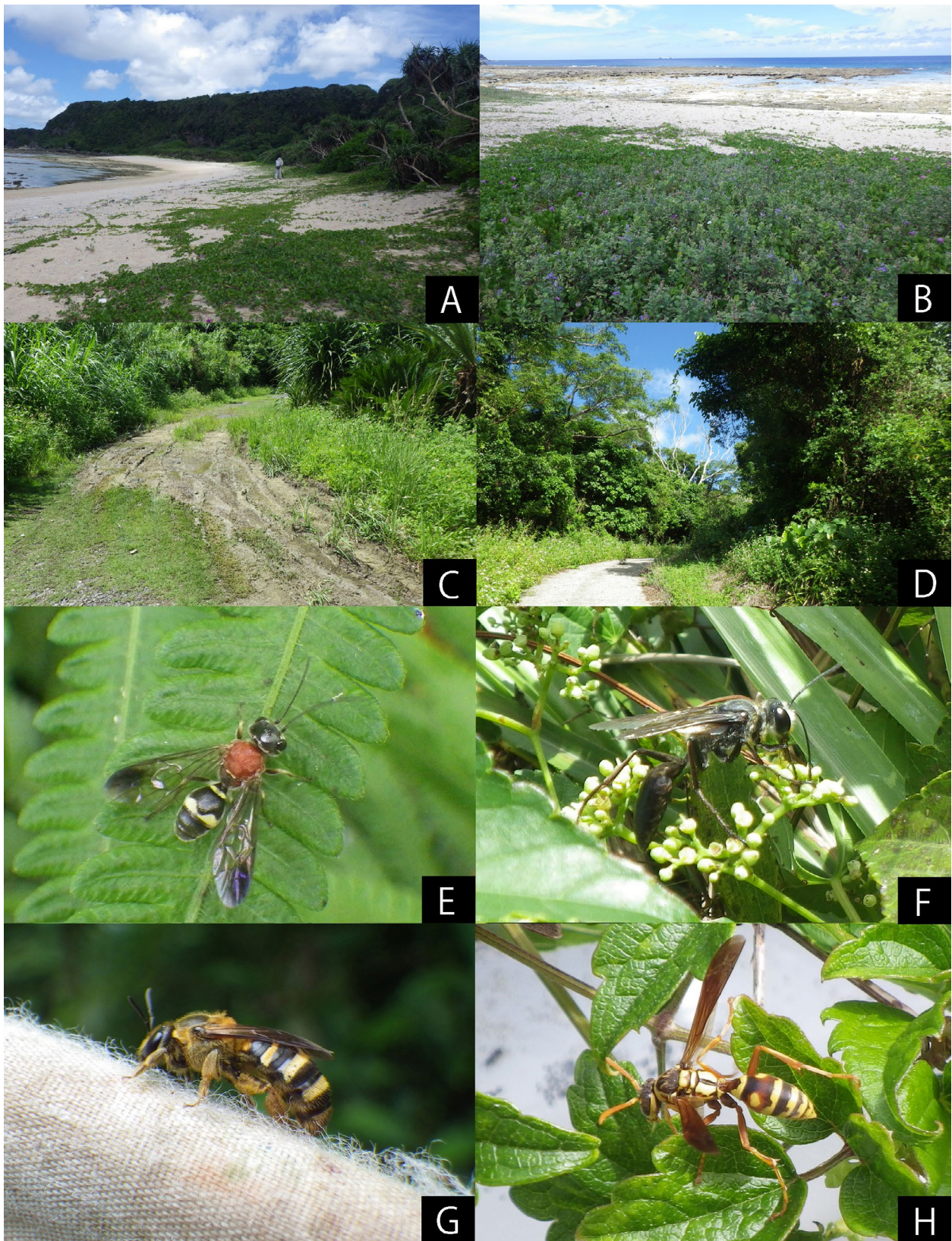


図 2. 沖永良部島における調査地および調査で得られたハチ類—A-C, 沖泊海浜公園; D, 大津勘; E, キスジセアカカギバ
ラバチ *Taeniogonalos fasciata*; F, クロアナバチ *Sphex argentatus*; G, オキナワカタコハナバチ *Lasioglossum subopacum*
okinawa; H, フタモンアシナガバチ名義タイプ亜種 *Polistes chinensis chinensis*.

あることが多いことから、初記録の判断が難しいものが多く、確実な判断ができないものについては、初記録と明記しなかった。南西諸島のハチ

目の記録については他の昆虫に比べて少ないものの、それらすべてを調べるためには膨大な時間と労力を要するため、今後の課題である。

目 録

Order Hymenoptera 膜翅目
Suborder Symphyta 広腰亜目 (ハバチ亜目)
Family Tenthredinidae ハバチ科

下記 2 種の他に *Nesoselandria* 属の不明種が 1 個体採集されている。

1) *Athalia proxima* (Klug, 1834)

リュウキュウカブラハバチ (図 3A)

1 ♂, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006620);
 2 ♂, 沖 泊 海 浜 公 園, 26. IV. (KPM-NK 5006496~5006497).

沖永良部島初記録である。

2) *Allantus luctifer luctifer* (F. Smith, 1874)

ハグロハバチ

6 ♀ 3 ♂, 芦 清 良, 25. IV. (KPM-NK 5006621~5006629); 1 ♀, 田 皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006630).

沖永良部島初記録である。

Suborder Apocrita 細腰亜目 (ハチ亜目)
Superfamily Ichneumonoidea ヒメバチ上科
Family Ichneumonidae ヒメバチ科

下記 15 種の他に、8 種の未同定種が採集されている。トウヨウキイロヒラタヒメバチ *Xanthopimpla punctata* (Fabricius, 1781) を 除 く 14 種が沖永良部島初記録である。

Subfamily Anomaloniinae コンボウアメバチ亜科

3) *Agrypon suzukii* (Matsumura, 1912)

スズキコンボウアメバチ (図 3B)

2 ♀, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006527, 5006528);
 1 ♀, 沖泊海浜公園, 26. IV. (KPM-NK 5006493).

沖永良部島初記録である。コブノメイガ *Cnaphalocrocis medinalis*、フタオビコヤガ *Naranga aenescens*、アワヨトウ *Mythimna separata*、イチモンジセセリ *Parnara guttata* と いった農業害虫に寄生する益虫である。

4) *Habronyx heros* (Wesmael, 1849)

マツケムシヤドリコンボウアメバチ (図 3C)

1 ♀, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5006526).

沖永良部島初記録である。南西諸島では従来八重山諸島でのみ記録があり、本種が報告されている北海道や本州との間に大きな分布の空白があり、今回の記録はその空白を埋めるものであるこ

とから、本種の分布を考える上で重要である。

Subfamily Campopleginae チビアメバチ亜科

5) *Campoplex sugiharai okinawensis* Momoi, 1970

スギハラチビアメバチ沖縄亜種

1 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006616).

沖永良部島初記録である。

6) *Cymodusa orientalis* Uchida, 1956 (図 3D)

1 ♀, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006617).

沖永良部島初記録である。

7) *Eriborus vulgaris* (Morley, 1912)

台湾アカハラチビアメバチ

1 ♀, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006618); 1 ♀, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5006619).

南西諸島では各地に多い普通種。沖永良部島初記録である。

Subfamily Metopiinae メンガタヒメバチ亜科

8) *Hysicera nigribasis* Momoi & Kusigemati, 1970

1 ♂, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5006529).

沖永良部島初記録である。

9) *Hysicera rugosa* Kusigemati, 1971

シワトガリアシブトヒメバチ

1 ♀, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006530).

沖永良部島初記録である。

10) *Metopius (Ceratopius) dissectorius*

(Panzer, 1805)

ムラサキメンガタヒメバチ (図 3E)

1 ♂, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006532).

沖永良部島初記録である。

11) *Metopius (Metopius) browni* Ashmead, 1905

キオビメンガタヒメバチ (図 3F)

4 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006444~5006447).

沖永良部島初記録である。農業害虫であるハスモンヨトウ *Spodoptera litura* に寄生する益虫である。

12) *Triclistus planus* Momoi & Kusigemati, 1970

1 ♂, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006531).

沖永良部島初記録である。

Subfamily Ophioninae アメバチ亜科

(清水壮氏同定)

13) *Dicamptus nigropictus* (Matsumura, 1912)

クロモンアメバチ

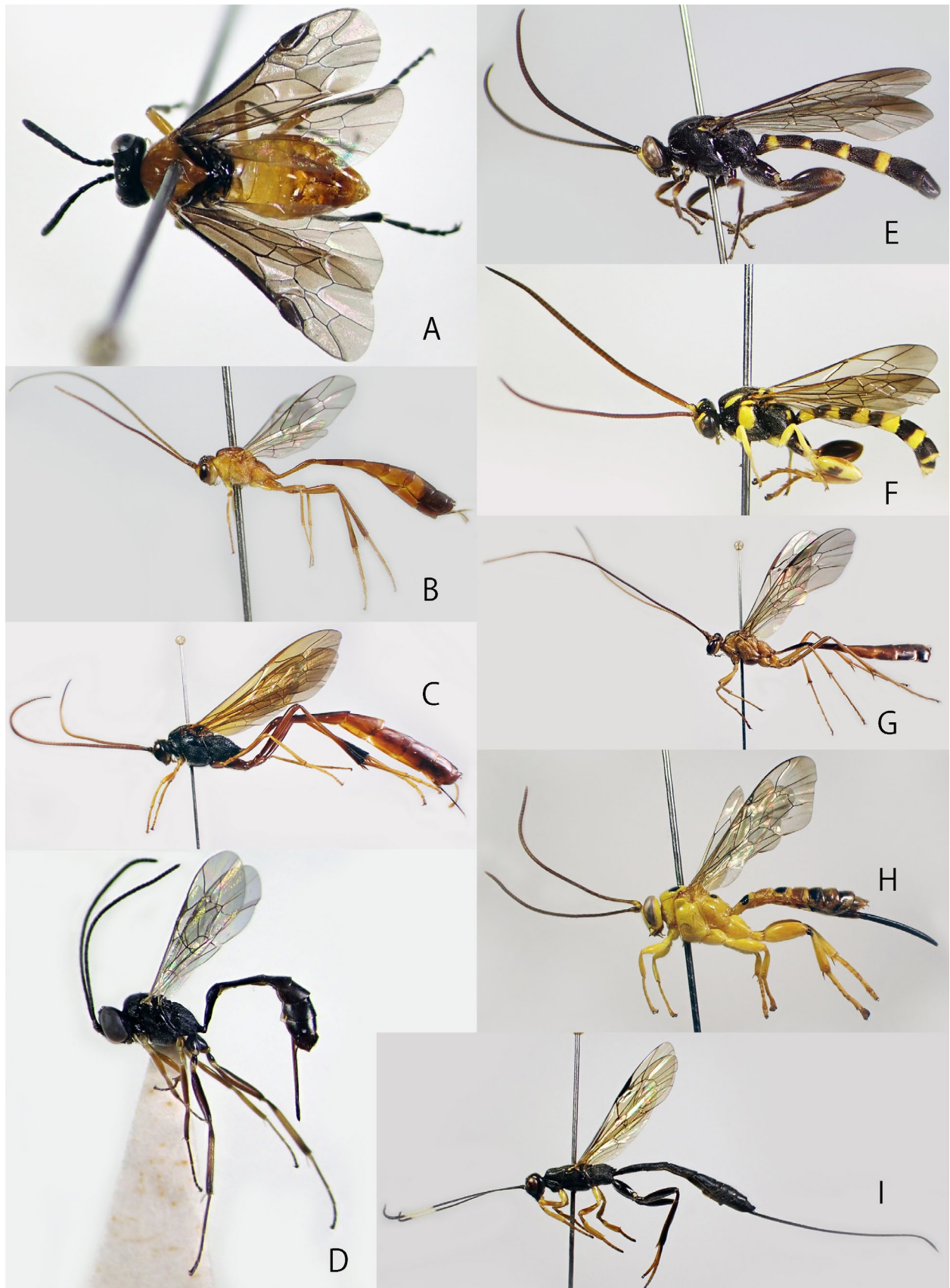


図3 調査で得られたハチ類 — A, リュウキュウカブラハバチ *Athalia proxima* (KPM-NK 5006497); B, スズキコンボウアメバチ *Agrypon suzukii* (KPM-NK 5006493); C, マツケムシヤドリコンボウアメバチ *Habronyx heros* (KPM-NK 5006526); D, *Cymodusa orientalis* (KPM-NK 5006617); E, ムラサキメンガタヒメバチ *Metopius dissectorius* (KPM-NK 5006532); F, キオビメンガタヒメバチ *Metopius browni* (KPM-NK 5006444); G, シコクホシアメバチ *Enicospilus shikokuensis* (KPM-NK 5006613); H, トウヨウキヒロヒラタヒメバチ *Xanthopimpla punctata* (KPM-NK 5006614); I, *Xorides nasensis* (KPM-NK 5006610).

1 ♂, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006612).
 沖永良部島初記録である。

14) *Enicospilus shikokuensis* (Uchida, 1928)

シコクホシアメバチ (図 3G)

1 ♀, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006613).
 沖永良部島および南西諸島から初記録である。

15) *Enicospilus nigropectus* Cameron, 1905

クロホシアメバチ

2 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006600); 2 ♀ 3 ♂, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006601, 5006605~5006608); 1 ♀ 2 ♂, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006602~5006604); 2 ♀ 7 ♂, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006591~5006599).

南西諸島では各地に多い普通種で、夕方になると林縁を活発に飛翔する。沖永良部島初記録である。

Subfamily Pimplinae ヒラタヒメバチ亜科

16) *Xanthopimpla punctata* (Fabricius, 1781)

トウヨウキヒロヒラタヒメバチ (図 3H)

1 ♀, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006614); 1 ♂, 田皆 (大山), 15. IX. (KPM-NK 5006615).

南西諸島では各地に多い普通種であるが、他の島より少ない印象を受けた。サツマイモノメイガ *Omphisa anastomosalis*、ニカメイガ *Chilo suppressalis*、アワノメイガ *Ostrinia furnacalis*、ワタノメイガ *Haritalodes derogata*、イチモンジセセリといった農業害虫に寄生する益虫である。

Subfamily Xoridinae マルズヒメバチ亜科

17) *Xorides nasensis* Uchida, 1956 (図 3I)

1 ♀, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006609); 1 ♀ 1 ♂, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006610~5006611).

沖永良部島初記録である。芦清良では広葉樹の立ち枯れに飛来した。

Family Braconidae コマユバチ科

下記 2 種の他に、少なくとも 7 種の未同定種が採集されている。

18) *Neurocrassus opis* (Belokobylskij, 1998) (図 4A)

1 ♀, 芦清良, 25. IV. (KPM-NK 5006651); 1 ♀, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006652); 1 ♀, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006653).

沖永良部島初記録である。

19) *Therophilus conspicuus* (Wesmael, 1837) (図 4B)

1 ♀, 沖泊海浜公園, 26. IV. (KPM-NK 5006650).

沖永良部島および南西諸島初記録である。

Superfamily Trigonoidea カギバラバチ上科

Family Trigonalidae カギバラバチ科

20) *Taeniogonalos fasciata* (Strand 1913)

キスジセアカカギバラバチ (図 2E)

1 ♀, 田皆 (大山), 25. IV. (KPM-NK 5006506); 4 ♂, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5006507~5006510).
 クワズイモ *Alocasia odora* やシダ類の葉上に見られる (図 2E)。

Superfamily Chalcidoidea コバチ上科

Family Leucospididae シリアゲコバチ科

21) *Leucospis sinensis* Walker, 1860

オキナワシリアゲコバチ (図 4C)

1 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006427); 1 ♀ 1 ♂, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006474, 5006475).

沖泊海浜公園ではヤエヤマハマナツメ *Colubrina asiatica* の花に訪花した。

Superfamily Apoidea ミツバチ上科

Family Sphecidae アナバチ科

22) *Isodontia nigella* (Smith, 1856)

コクロアナバチ

1 ♀, 下城, 14. IX. (KPM-NK 5006504); 1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006401).

テリハノブドウの花に飛来した。

23) *Sceliphron (Sceliphron) madraspatanum*

***madraspatanum* (Fabricius, 1781)**

キゴシジガバチ (図 4D)

1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006402); 3 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006458~5006460).

沖泊海浜公園では車の轍にできた水たまり (図 2C) に泥をとり飛来した。

24) *Sphex argentatus* Fabricius, 1787

クロアナバチ (図 2F)

2 ♀ 2 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006397~5006400); 2 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006456, 5006457); 1 ♂, 大津勘, 15. IX. (KPM-NK 5006498).

田皆 (畑) ではテリハノブドウ *Ampelopsis glandulosa* の花 (図 2F)、沖泊海浜公園ではヤエヤマハマナツメの花に訪花した。他にも複数個体

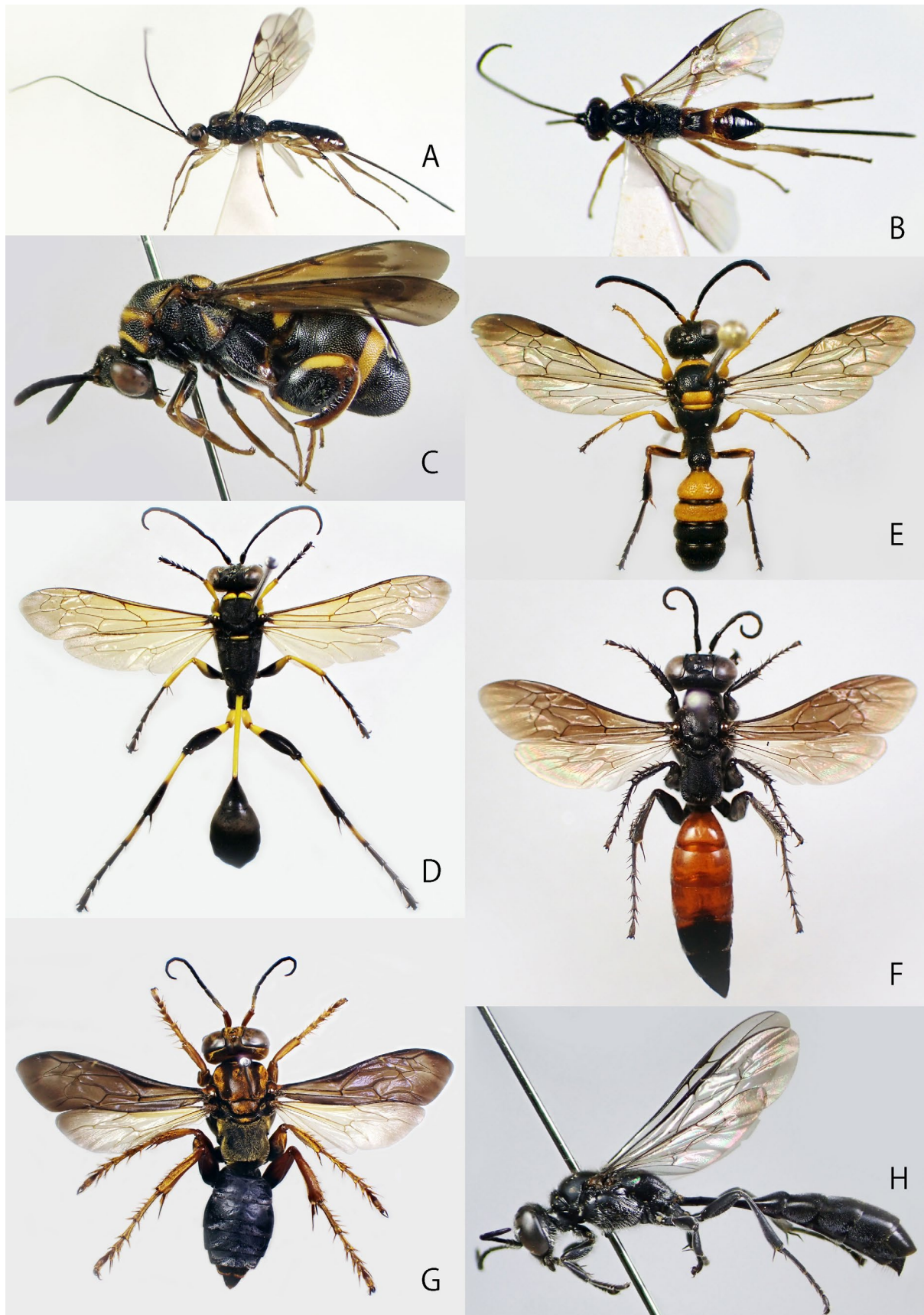


図 4. 調査で得られたハチ類 — A, *Neurocrassus opis* (KPM-NK 5006651); B, *Therophilus conspicuus* (KPM-NK 5006650); C, オキナワシリアゲコバチ *Leucospis sinensis* (KPM-NK 5006475); D, キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum* (KPM-NK 5006402); E, ハナダカツチスガリ *Cerceris tomiyamai* (KPM-NK 5005855); F, アカオビケラトリバチ *Larra amplipennis* (KPM-NK 5006467); G, キンイロコオロギバチ *Liris aurulentus* (KPM-NK 5006461); H, クロイワジガバチモドキ *Trypoxylon inornatum* (KPM-NK 5006561).

目撃した。

Family Crabronidae ギングチバチ科

25) *Cerceris tomiyamai* Yamane & Tano, 1995

ハナダカツチスガリ (図 4E)

1 ♀, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5005852);
3 ♂, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5005853 ~ 5005855).

本種は 1981 年雌雄 1 個体が沖永良部島の大山で採集された後、長らく追加個体が発見されなかったことから、環境省 (2015) および鹿児島県 (2016) においてそれぞれ準絶滅危惧、絶滅危惧 I 類に指定されている希少種で、今のところ沖永良部島固有種である。上記標本は原記載以降 35 年ぶりに採集されたもので、保全上重要な知見であることから、これらの記録は渡辺・瑤寺 (2016) で既に報告している。今回の調査では大山の 1 カ所でのみ確認されており、生息地は局限され、成虫はショウベンノキ *Turpinia ternata* の花に飛来する (渡辺・瑤寺, 2016)。

26) *Ectemnius (Hypocrabro) schlettereri sakaguchii*

(Matsumura & Uchida, 1926)

イワタギングチ沖縄亜種

1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006469).
ヤエヤマハマナツメの花に訪花した。

27) *Larra (Larra) amplipennis* (Smith, 1873)

アカオビケラトリバチ (図 4F)

1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006467).
車の轍にできた水たまり (図 2C) に飛来した。

28) *Liris aurulentus* (Fabricius, 1787)

キンイロコオロギバチ (図 4G)

4 ♀ 2 ♂, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006461~5006466).

ヤエヤマハマナツメの花に多数訪花した。

29) *Liris festinans festinans* (Smith, 1859)

ヒメコオロギバチ琉球亜種

1 ♂, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006468).

30) *Liris subtessellatus subtessellatus* (Smith, 1856)

ナミコオロギバチ

1 ♀, 芦清良, 25. IV. (KPM-NK 5006505).

31) *Trypoxylon (Trypoxylon) inornatum*

Matsumura, 1926

クロイワジガバチモドキ (図 4H)

2 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006560, 5006561);
1 ♂, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006562); 1 ♂, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006563); 1 ♀, 芦清良, 16. IX. (KPM-NK 5006564).

沖永良部島初記録である。

32) *Trypoxylon (Trypoxylon) petiolatum* Smith, 1858

ナミジガバチモドキ

1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006403);
3 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006471~5006473).

沖泊海浜公園では車の轍にできた水たまり (図 2C) に泥をとり飛来した。

Family Colletidae ムカシハナバチ科

(長瀬博彦氏同定)

33) *Hylaeus (Nesoprosopis) insularum insularum*

Yasumatsu & Hirashima, 1965

クロシオメンハナバチ本土沖縄亜種

5 ♀ 7 ♂, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006569~5006571, 5006573~5006575, 5006578, 5006580~5006582, 5006584, 5006587); 5 ♀ 2 ♂, 芦清良, 25. IV. (KPM-NK 5006572, 5006577, 5006583, 5006585, 5006586, 5006588, 5006589); 1 ♀ 1 ♂, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006576, 5006579); 1 ♀, 大津勘, 26. IV. (KPM-NK 5006590); 1 ♀, 沖泊海浜公園, 26. IV. (KPM-NK 5006495).

アカメガシワ *Mallotus japonicus* の花等に良く飛来し、個体数は多い。

Family Andrenidae ヒメハナバチ科

(長瀬博彦氏同定)

34) *Andrena (Chlorandrena) okinawana*

Matsumura & Uchida, 1926

ミナミキバナヒメハナバチ

3 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006566~5006568).

35) *Andrena (Holandrena) ishikawai* Hirashima, 1958

イシカワヒメハナバチ (図 5A)

6 ♀ 2 ♂, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006547, 5006549, 5006550~5006555); 2 ♀, 下城, 26. IV. (KPM-NK 5006557, 5006558); 1 ♀ 1 ♂, 芦清良, 25. IV. (KPM-NK 5006548, 5006556).

沖永良部島初記録である。

36) *Andrena (Melandrena) edashigei* Hirashima, 1960

エダシゲヒメハナバチ

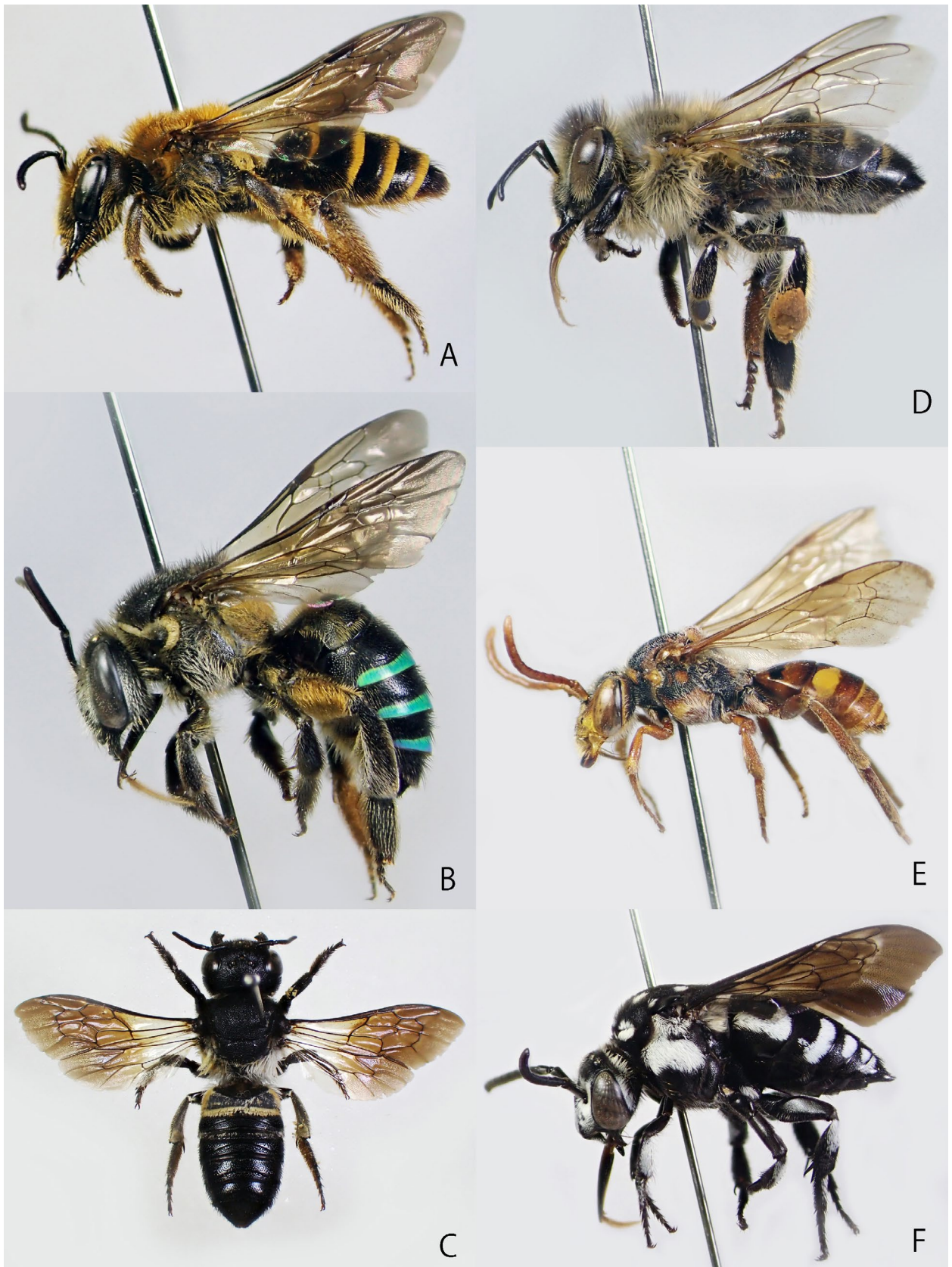


図 5. 調査で得られたハチ類 — A, イシカワヒメハナバチ *Andrena ishikawai* (KPM-NK 5006551); B, ミナミアオスジハナバチ *Nomia chalybeata* (KPM-NK 5006545); C, ネジロハキリバチ *Megachile disjunctiformis* (KPM-NK 5006488); D, ニホンミツバチ *Apis cerana japonica* (KPM-NK 5006559); E, ダイミョウキマダラハナバチ *Nomada japonica* (KPM-NK 5006546); F, タカオルリモンハナバチ *Thyreus takaonis* (KPM-NK 5006525).

1 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006565).

Family Halictidae コハナバチ科
(長瀬博彦氏同定)

37) *Halictus (Seladonia) aerarius* Smith, 1873
アカガネコハナバチ

4 ♀ 1 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006449~5006453); 1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006494).

38) *Lasioglossum (Ctenonomia) kumejimense*
(Matsumura & Uchida, 1926)

クメジマコハナバチ

1 ♀, 芦清良, 25. IV. (KPM-NK 5006518).

39) *Lasioglossum (Evyllaesus) amamiense*
Ebmer & Sakagami, 1994

アマミチビコハナバチ

1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006434).
沖永良部島初記録である。

40) *Lasioglossum (Lasioglossum) subopacum*
okinawa Ebmer & Maeta, 1999

オキナワカタコハナバチ (図 2G)

2 ♀, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006533~5006534);
3 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006539~5006541);
3 ♀, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006536~5006538); 2 ♀, 大津勘, 26. IV. (KPM-NK 5006502, 5006503); 2 ♀, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5006535, 5006542); 1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006448).

沖永良部島初記録である。タチアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* var. *radiata* によく飛来し、田皆 (大山) ではショウベンノキにも飛来した。

41) *Nomia (Acunomia) chalybeata* Smith, 1875
ミナミアオスジハナバチ (図 5B)

1 ♀, 田皆 (大山), 15. IX. (KPM-NK 5006543);
芦清良, 16. IX. (KPM-NK 5006544, 5006545).

Family Megachilidae ハキリバチ科

42) *Lithurgus (Lithurgus) collaris* Smith, 1873
シロオビキホリハナバチ

1 ♂, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006485).
長瀬博彦氏同定。

43) *Megachile (Amegachile) okinawana*
Yasumatsu & Hirashima, 1964

オキナワキバラハキリバチ

1 ♀ 1 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006442, 5006443); 1 ♀ 1 ♂, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006486~487).

沖泊海浜公園ではヒナアズキ *Vigna riukiensis* の花に訪花した。

44) *Megachile (Callomegachile) disjunctiformis*
Cockerell, 1911

ネジロハキリバチ (図 5C)

5 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006488~5006492).

ハマゴウ *Vitex rotundifolia* の花に複数個体が飛来した。

Family Apidae ミツバチ科

45) *Amegilla (Zonamegilla) dulcifera*
(Cockerell, 1926)

アオスジフトハナバチ

2 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006440, 5006441); 1 ♀, 大津勘, 15. IX. (KPM-NK 5006501); 2 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006482, 5006483).

46) *Apis cerana japonica* Radoszkowski, 1887
ニホンミツバチ (図 5D)

1 ♀, 大津勘, 26. IV. (KPM-NK 5006559).

確認できた個体は上記 1 個体のみで、タチアワユキセンダングサの花に飛来していた。奄美群島の本種個体群は鹿児島県 (2016) によって消滅のおそれのある地域個体群に指定されているが、今回得られた個体がこれらと同一個体群に属するのか否かについては不明である。本種は養蜂のために流通することがあるため、養蜂由来の外来種の可能性も否定できない。

47) *Apis mellifera* Linnaeus, 1758
セイヨウミツバチ

1 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006632); 1 ♀, 芦清良, 25. IV. (KPM-NK 5006633); 1 ♀, 沖泊海浜公園, 26. IV. (KPM-NK 5006480); 1 ♀, 田皆 (大山), 15. IX. (KPM-NK 5006634).

タチアワユキセンダングサの花に多い。

48) *Ceratina (Ceratiniidia) okinawana okinawana*
Matsumura & Uchida, 1926

オキナワツヤハナバチ奄美沖縄亜種

3 ♀ 2 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006435~5006439).

**49) *Eucera (Synhalonia) okinawae okinawae*
(Friese, 1910)**

オキナワヒゲナガハナバチ奄美沖縄亜種

5 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006519~5006521, 5006635, 5006636); 2 ♀, 沖泊海浜公園, 26. IV. (KPM-NK 5006478~5006479).

50) *Nomada japonica* Smith, 1873

ダイミョウキマダラハナバチ (図 5E)

1 ♀, 田皆 (大山), 26. IV. (KPM-NK 5006546).

長瀬博彦氏同定。沖永良部島初記録である。タチアワユキセンダングサの花に飛来した。

51) *Thyreus takaonis* (Cockerell, 1911)

タカオルリモンハナバチ (図 5F)

1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006484); 1 ♀, 芦清良, 16. IX. (KPM-NK 5006525).

52) *Xylocopa (Alloxylocopa) flavifrons*

Matsumura, 1912

オキナワクマバチ

1 ♂, 芦清良, 24. IV. (KPM-NK 5006522); 2 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006523, 5006524); 1 ♂, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006481).

見通しの良い空間でホバリングしている個体が多い。

Superfamily Pompiloidea クモバチ上科

Family Pompilidae クモバチ科

53) *Auplopus carbonarius japonicus* Tsuneki, 1990

ナミヒメクモバチ

1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006404).

他にも小型のクモバチは複数個体目撃したが、採集できた個体は上記のみ。

54) *Batozonellus maculifrons* (Smith, 1873)

モンクモバチ (図 6A)

1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006454).

テリハノブドウの花に飛来した。

55) *Tachypompilus analis* (Fabricius, 1781)

ツマアカクモバチ

1 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006455).

テリハノブドウの花に飛来した。

Superfamily Vespoidea スズメバチ上科

Family Vespidae スズメバチ科

Subfamily Eumeninae ドロバチ亜科

56) *Anterhynchium flavomarginatum hanedai*

Tano, in Yamane & Tano, 1983

オオフトオビドロバチ沖縄亜種 (図 6B)

1 ♂, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006631); 2 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006414, 5006415).

田皆の個体はテリハノブドウの花に飛来したものである。従来、沖永良部島からは奄美大島に産するオオフトオビドロバチ中琉球亜種 *A. flavomarginatum amamense* Tano, 1983 が記録されていたが、今回得られた本種はいずれも沖縄本島から記録のある沖縄亜種であった。

57) *Delta esuriens okinawae* (Giordani Soika, 1986)

クロスジスズバチ (図 6C)

1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006470).

俊敏に飛翔するため採集しにくい。他に田皆 (畑) でも目撃した。上記個体は車の轍にできた水たまり (図 2C) に飛来したもので、おそらく泥をとりにきたものと考えられる。

58) *Euodynerus (Pareuodynerus) nipanicus*

flavicornis Yamane, 1987

ミカドドロバチ奄美沖縄亜種

1 ♀ 8 ♂, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006405~5006413).

テリハノブドウの花に飛来した。

Subfamily Polistinae アシナガバチ亜科

59) *Polistes chinensis chinensis* (Fabricius, 1793)

フタモンアシナガバチ名義タイプ亜種 (図 2H, 6D)

8 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006419~5006426).

テリハノブドウの花に飛来した (図 2H)。上記の採集地では個体数が多かったが、他の場所では目撃すらしなかった。日本本土に産する亜種 *P. chinensis antennalis* Perez, 1905 に比べると体色の黄色みが強く、ひじょうに美しい。

60) *Polistes formosanus* Sonan, 1927

台湾アシナガバチ (図 6E)

1 ♀, 田皆 (大山), 27. IV. (KPM-NK 5006517); 3 ♀, 田皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006416~5006418); 2 ♀, 大津勘, 15. IX. (KPM-NK 5006499, 5006500); 1 ♀, 芦清良, 16. IX. (KPM-NK 5006516).

島内では各地に多く、テリハノブドウの花に良く飛来する。他にも複数個体目撃した。

61) *Polistes jokahamae okinawensis*

Matsumura & Uchida, 1926

セグロアシナガバチ沖縄亜種 (図 6G)

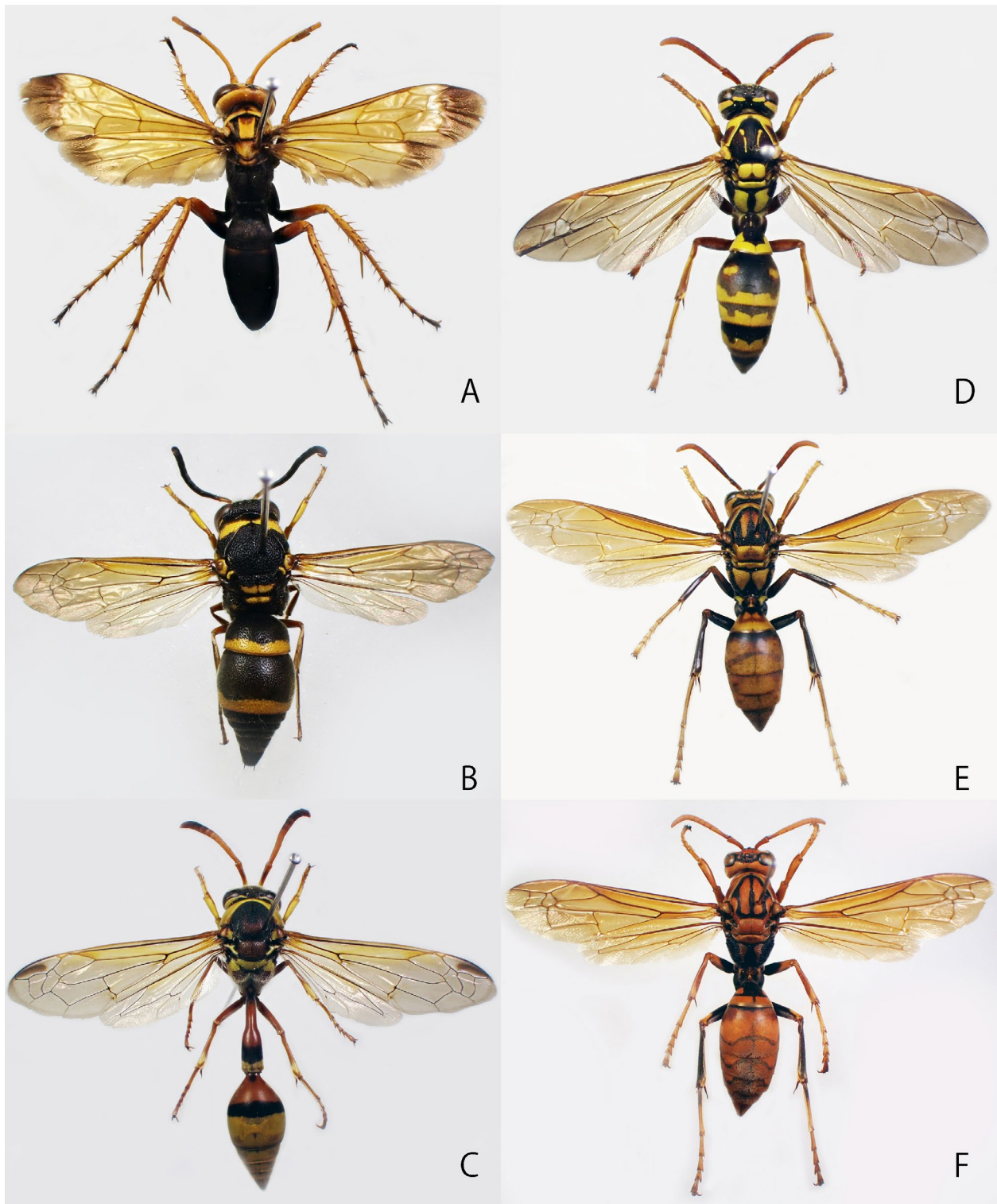


図 6. 調査で得られたハチ類 — A, モンクモバチ *Batozonellus maculifrons* (KPM-NK 5006454); B, オオフトオビドロバチ 沖縄亜種 *Anterhynchium flavomarginatum hanedai* (KPM-NK 5006414); C, クロスジスズバチ *Delta esuriens okinawae* (KPM-NK 5006470); D, フタモンアシナガバチ名義タイプ亜種 *Polistes chinensis chinensis* (KPM-NK 5006422); E, タイワンアシナガバチ *Polistes formosanus* (KPM-NK 5006418); F, セグロアシナガバチ沖縄亜種 *Polistes jokahamae okinawensis* (KPM-NK 5006476).

1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006476).
得られた個体は上記 1 頭のみ。

62) *Ropalidia fasciata* (Fabricius, 1804)

オキナワチビアシナガバチ

6 ♀, 田 皆 (畑), 15. IX. (KPM-NK 5006428~5006433); 1 ♀, 沖泊海浜公園, 15. IX. (KPM-NK 5006477).

畑の周囲に多い種で、タチアワユキセンダングサの花に良く飛来し、テリハノブドウの花にも来る。他にも複数個体目撃した。

Subfamily Vespinae スズメバチ亜科

63) *Vespa analis eisa* Yamane, 1987

コガタスズメバチ沖縄亜種

2 ♀, 下城, 25. IV. (KPM-NK 5006511, 5006512); 1 ♀, 下城, 14. IX. (KPM-NK 5006513); 2 ♀, 芦清良, 16. IX. (KPM-NK 5006514, 5006515).

他にも複数個体目撃した。

結果と考察

今回の調査により、63 種のハチ目昆虫を確認することができた。このうち、少なくとも 23 種については沖縄永良部島初記録である。新たに記録される種のうち、シコクホシアメバチと *Therophilus conspicuus* については南西諸島からも初記録となるが、調査不足によるものなのか、外来種なのかは今後の検討が必要である。なお、調査では上記の他にもヤセバチ科 Evaniidae、コンボウヤセバチ科 Gasteruptidae および微小寄生蜂類が多数得られているが、これらは同定できなかったため、今後分類作業が必要である。

調査結果を見てみると、南西諸島における普通種のいくつかが得られていないことが見えてくる。例えば、アナバチ科のヤマトルリジカバチ *Chalybion japonicum* (Gribodo, 1883)、ヒメバチ科のヨコジマトガリヒメバチ *Goryphus basilaris* Holmgren, 1868 やミノオキヒロヒラタヒメバチ *Xanthopimpla clavata* Krieger, 1914 は南西諸島の主要島で最普通種であり、乾燥した環境でも見られる種であることから、これらが採集されなかったことは興味深い。また、南西諸島の各島に普通に見られ、目に留まりやすく捕獲もしやすいツチバチ科についても、1 個体も確認できなかった。調査地の環境が生息に好適と考えられるこれらのハチ類が見られなかった原因は不明であり、調査した時期が悪かったためなど、様々に考えられるが、今後の調査が望まれる。なお、ハバチ上科の多様性が極めて乏しく、わずかにハバチ科が 2 種得られたのみであったが、これは元々ハバチが少ない南方の島嶼域である上、森林が少なく、乾燥している環境が多いことが影響していると考えられた。

沖縄永良部島の生物相は従来から沖縄本島と強く結びつくと考えられてきており、今回の調査結果もほとんどがそれを裏付けた。しかしながら、自然環境を反映して森林性の種が著しく少なく、ほとんどは沖縄本島あるいは奄美諸島に見られる種であった。一点、オオフタオビドロバチにおいては従来記録のある中琉球亜種ではなく、沖縄亜種が確認された点については特筆すべき点である。どちらかが外来種である可能性もあり、亜種の分布について詳細な調査が望まれる。

謝 辞

一部のハチの種を同定していただいた長瀬博彦氏（鎌倉市）および清水壮氏（神戸大学大学院）、ハチの訪花植物を同定していただいた勝山輝男氏と田中徳久博士（神奈川県立生命の星・地球博物館）、調査に同行いただいた伊藤誠人博士（大阪府茨木市）および瑤寺裕氏（東京農業大学）、標本とデータの整理にご協力いただいた加藤優羽氏（東京農業大学大学院）、調査に際しお世話になった沖縄永良部島の島民の皆様にお礼申し上げる。本研究は筆者の JSPS 科研費 (26840134) の助成を受けて行われた。

引用文献

- 氏家 宏, 1986. 琉球弧の海底 - 底質と地質 -, 118pp. 新星図書出版, 那覇.
- 鹿児島県, 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 レッドデータブック 2016 動物編. 401pp. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 鹿児島県大島支庁, 2016. 平成 27 年度奄美群島の概況. 403pp. 鹿児島県大島支庁, 奄美.
- 環境省, 2015. レッドデータブック 2014, 5 昆虫類 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物. ぎょうせい, 東京.
- 木崎甲子郎編, 1985. 琉球弧の地質史, 278pp. 沖縄タイムス社, 那覇.
- 森林総合研究所, 2006. 森林被害対策シリーズ No. 1, 「松くい虫」の防除戦略 マツ材線虫病の機構と防除. 16pp. 森林総合研究所, つくば.
- 多田内 修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版, 東京.
- 寺山 守・須田博久, 2016. 日本産有剣ハチ類図鑑. 735 pp. 東海大学出版部, 平塚.
- 山根正気・幾留秀一・寺山 守, 1999. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 831pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.